

利他行動に対する第三者からの評価

渡邊 比奈

利他行動(自分自身が何らかのコストを負担し、他者の利益へとつながる行動)は、社会的に望ましいものとされ、注目や称賛の対象となることが多い。しかし、先行研究から、援助者本人による自己アピールがあった場合、被援助者が心理的負債感を経験した場合、被援助者にもたらされた利益に対して援助者が負担したコストが過大であった場合は、援助者に対して、称賛ではなく批判が生じる可能性が指摘された。そこで本研究では、我々が利他行動を評価する際にどのような点を重視しているのかについて検討することを目的とした。また、多元的無知の観点から、利他行動に対しての評価における個人と社会との乖離についても検討した。

本研究の仮説は、次の4つである。

- ① 援助者の動機が、援助者の「人柄」に関する評価に影響を与える
- ② 援助者の負担したコストが、援助者の「人柄」に関する評価に影響を与える
- ③ 利他行動の結果と援助者の負担したコストのバランスが、援助者の「能力」に関する評価に影響を与える
- ④ 「個人的評価」より「社会的評価」の方が高い

利他行動に対する批判の規定因となるであろう複数の要素を組み合わせたシナリオを提示し、複数の評価項目を設定して、質問紙調査を実施した。

調査の結果、仮説①と仮説④は支持され、仮説③は一部支持され、仮説②は支持されなかった。また、相関分析の結果、「個人的評価」と「有能さ」の間に最も強い正の相関関係が認められた。重回帰分析でも、仮説①および仮説③や相関分析と整合性のある結果が得られた。さらに、「個人的評価」と「有能さ」において、女性の得点が男性の得点を上回った。

仮説①と仮説④の検証結果は先行研究とも合致し、仮説③の検証結果も先行研究と一部合致した。仮説②については、本研究で用いたシナリオに不備があったため、今後の研究において検討を続ける必要がある。相関分析と重回帰分析の結果から、本研究の実験参加者は、援助者を評価する際に、その援助者の「能力」を最も重視する傾向にあることが分かった。

今後の研究では、サンプルの偏りや質問紙の構成などの課題点を修正したうえで、利他行動に関連する他の要素や、本研究で新たに分かった男女差についても検討を進めていくことが望ましい。(社会心理学)